

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 2 1 年度 豊中市立図書館協議会		
開 催 日 時	平成 2 1 年（2 0 0 9 年）6 月 2 2 日（月）1 0 時～1 1 時 3 0 分		
開 催 場 所	豊中市立岡町図書館 集会室	公 開 の 可 否	☒ 可 不可・一部不可
事 務 局	生涯学習推進室 岡町図書館	傍 聴 者 数	2 人
公開しなかつた理由			
出席者	委 員 員	船曳弘栄 中尾克美 上口佐知子 鵜川まき 中川幾郎 塩見 昇 村上泰子 横井 明	
	事 務 局	生涯学習推進室長 岡町図書館長 千里図書館長 野畑図書館長 庄内図書館長 蛍池図書館長 岡町図書館副館長 岡町図書館副主幹	
	そ の 他		
議 題	1 図書館評価検討委員会の報告について 2 今後の取組について		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

平成21年度（2009年度） 図書館協議会

日 時：平成21年（2009年）6月22日（月） 10時～11時30分

場 所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委 員 船曳 中尾 上口 鶴川 中川（委員長） 村上 塩見 横井

事務局 鈴木 古川 林 藤沢 大原 北風 小山 堀野 松井

開 会

資料確認

事務局 教育委員会事務局生涯学習推進室長 鈴木よりあいさつ

委員（欠席者）の紹介

1 図書館評価検討委員会の報告について

＊事務局から、資料「豊中市立図書館の運営状況に関する評価報告書」「豊中市の教育に関するアンケート調査単純集計結果概要（図書館抜粋版）」に基づき報告をいただいた。

- ・ 図書館評価検討委員会の委員長に村上委員を、委員長代行者を上口委員に担っていた。
- ・ 図書館評価検討委員会は、平成21年4月23日（木）から6月11日（木）までの間で全4回、実施した。
- ・ 「豊中市立図書館の運営状況に関する評価報告書」は、1の章は評価の目的等を、2の章は評価の構成等をまとめている。3の章から外部評価の結果をまとめている。
- ・ 外部評価の結果は、「豊中市立図書館の運営状況に関する評価報告書」の10頁から11頁まではリーディング項目の評価結果を、12頁から13頁はアンケート調査結果等から見たリーディング項目以外からの評価結果をまとめている。14頁では今回の評価の全体のまとめを行なっている。

●委員長

ただ今の報告について、何かご意見やご質問はあるか。

●委員

補足説明として、評価検討委員会では外部評価を実施する上で、なるべく早く外部評価を進めていく必要があるので、リーディング項目を減らす方向にできないかとの議論があった。しかし、図書館のサービスが多岐にわたっていることや、また元々の項目に利用者の満足度（効果）が測れる指標がなかったもの等が逆に見えたこともあり、結果としてこのようなリーディング項目となった。職員研修の達成度については、職員自己の評価なので図書館サービスにどのような影響を与えたのかは表していないが、リーディング項目の

大分類「(2) 図書館の設置目的・使命の達成状況に関する評価」の各事業の指標の達成状況を確認する中で、職員研修の達成度が間接的に表れてくると考えた。

また、認知度に関する項目が運営のほうにあがってきている。これは図書館が行なっているサービスが図書館評価検討委員会の委員でさえ、当初はあまり知らなかった。実際のアンケート結果を見てもあまり知られていない。ただし、元々対象としている人数が少ないサービスもあるので、そのあたりは加味していかなければならない。

また、個々の指標を評価しても全体のサービスの向上には繋がらないので、全体的に見て評価を行なっていく必要がある。

●委員長

元々は、指定管理者制度の是非を行なう観点から、その根拠を示す仕組として豊中市立図書館では評価の導入が始まった。

豊中市立図書館の評価システムは、教育基本法改正による評価の導入より先行した取組であったが、結果として良かったと思う。

豊中市立図書館の評価に関する今までの流れは、次のとおりである。

図書館評価システムの構築に当たっては、図書館内部で検討グループを立ち上げ、館長を中心とするグループは「(1) 経営・運営・管理状況に関する評価」の各項目を、担当者を中心とするグループは大項目「(2) 図書館の設置目的・使命の達成状況に関する評価」の各項目を、1年をかけて検討を行った。この内部評価の仕組は、継続的に運営をしていくことになった。

その後、外部評価の必要性から、3年に一度、図書館評価システムのリーディング項目に対する外部評価を実施することとなった。

内部評価については科学的・客観的な数値データ行い、外部評価については定性的な評価を取り入れた。

内部評価を実施してみると、当初想定していたものよりも項目が多くなり過ぎたので、評価のための評価にならないよう現場が運営しやすいように、図書館に評価項目の加工・修正を行なってもらうことをお願いした。

今回の外部評価は、多くなり過ぎた図書館評価システムの評価項目を見直す第1回目となったと思う。項目の見直しを行なっていくことは、評価システム上、やむをえないと思う。

今後は、図書館が毎年、発行している年報も評価に合わせて、見直していただきたい。年報に出てくる数値は評価と対応したものでなければならない。

●委員

この外部評価は大変だったと思う。ただ、今回の協議会の資料の配布は少し遅かったと思う。

リーディング項目は多岐にわたっており、リーディング項目を減らす方向で議論をされたが逆に足りない部分を増やされたので、図書館を把握する上で、より分かりやすくなったと思う。ただし、各達成目標の数値に囚われるのではなく、リーディング項目全体、

評価内容の記載が重要になっていくと思う。もう少し評価内容を具体的に記載したほうが良いのではないかな。

以前から子どもたちへのサービス等は単年度ではなく、ノウハウの蓄積や精神的な伝わり方等が重要であり、そのあたりが足りないのではないかなという話はしていたと思う。そのようなところがこの評価内容にもう少し加わっても良い気がした。全体を図書館の財産として、どう継続し職員間で情報共有していくかが大切である。

先日の新聞は、図書館の見直しが増えているとの記事があったが、豊中市では指定管理者制度を導入せずに、このような評価システムを導入してきていることは良かったことだと思う。また、豊中市の教育振興計画が来年3月に策定されるとのことなので、当該計画の中で図書館がどのような位置づけになるかが重要である。

●委員

評価内容の記載が抽象的過ぎないか。具体的なところがわかりにくいので、明記していただきたい。また、「豊中市立図書館評価システム リーディング項目」の1頁の「人材育成による職員の能力・資質向上」の研修の定義が数値的から見て分かりにくい。単純に回数を人数で割ると1.3人程度となり、OJTのようなものになるので、研修と呼ぶには違和感がある。

●委員

学校現場においても、この評価と同じように感情だけではなく数値でみる評価も必要であると感じた。

●委員

学校では数値の評価だけでは測れない部分がある。評価を行なう上で心配になるのが、場合によっては数値が下がることもあり、全体として見ていくことが必要ではないかと思う。学校においても、学校司書が配置されたこともあり、学校での読書活動も進んできていると実感している。今後も、数値だけにとらわれてしまわないよう、図書館活動を行なっていただきたい。

●委員

評価内容の記載については、どう受け止めて次につなげていく上で重要であると思うが、今回の外部評価では評価内容を細かく確認しきれなかった部分もあると思うので、今回の結果を受けて序々に見直していただきたい。庁内の他の部署が発行している事業報告書と比較しても良いものになってきていると思う。昨年、図書館利用者アンケートを実施したと思うが、利用者から見て図書館の改善が見えてくれば良いと思う。そうなれば、今回、外部評価を行なった意味も出てくる。

●委員

先ほど委員長からの説明もあったと思うが、図書館評価システムの各項目の設定を苦勞

されたと思う。今回、外部評価を実施することで、現在の図書館運営の状況や図書館法が改正された中で、外部評価委員会にかけることによって一歩距離をおいたところで指標も見ることができ、先進的な取組が着実に進んできていると、評価ができると思う。

ただ、今回、リーディング項目の比較に「市区立との比較」が加わったが、日本図書館協会がまとめている全国平均には2つのものがある。

1つは、同一の人口規模の図書館の平均値を出しているものと、もう1つは、同一の人口規模の図書館の貸出密度の高い上位10%の平均値を出しているものがある。貸出密度は、数値で図書館サービスの広がりを実態を一番よく表すものである。

図書館の目標に設定するならば、後者のもののほうが良いと思う。「市区立との比較」の数値には検討の余地がある。

それと、「豊中市立図書館の運営状況に関する評価報告書」の13頁の上から3段目の「対照」という意味が分からない。課題的に定義されているものは最もだと思われる。

各自治体において、教育振興計画の策定が進められているが、当該計画の中での図書館の位置づけが重要である。教育振興計画に図書館を組み込むことによって、市民が自主的に学習できる環境づくり、生涯学習のシステム作りが大切である。生涯学習そのものが豊かになると思う。そのような取組を定義していくための素材が、この外部評価から出せると思う。

評価のための評価とならないよう、日常業務の中にPDCAサイクルを組み込んで一体化できるかが、今後の課題である。

●事務局

ここで言う「対照」とは、「自習室のスペース」と「図書を閲覧できるスペース」を指している。自習については、ご遠慮をいただきたいとの張り紙を貼っているが、図書館の利用状況によっては、現場では自習についても考慮している場合もある。

●委員

千里図書館の場合は、平日でもいすや机の空きがない。

図書館でももう少し資料が閲覧できるいすや机があってもよいと思う。

●委員

国際交流センターや生活情報センターくらしかんでも自習をしている学生等の人たちがいるが、本来、利用すべき人が利用できない状況もあり、難しい問題であると思う。

●委員長

先ほどのリーディング項目に対するご意見で、「豊中市立評価システム リーディング項目」の1頁目の内部又は外部研修について、説明をお願いしたい。

●事務局

内部とは「豊中市の庁内」をいい、外部とは「豊中市の庁外」を指している。

●委員

内部の研修は、図書館独自の研修のものと、豊中市庁内の全体の研修を含んだものとなっているのでわかりにくい。図書館の研修とは意味合いが違うと感じる。

●委員長

内部及び外部研修の定義がわかりにくいので、言葉を見直したほうが良い。全般的には、このリーディング項目でやっていけるか。

●事務局

とりあえずこれで取組んでいきたい。

●委員長

これらの項目及び指標は本来、豊中市立図書館の職員で決めたものである。
また、管理運営に関するコストの評価はどうするのか。

●事務局

この評価のファームの中でコストをまとめていくのは無理があると思われる。
コストについては、別途、予算及び決算をまとめていく。

●委員長

事業のコストパフォーマンスをどう見ているのは大切である。コストパフォーマンスに関する評価を別にまとめておいた方がよい。ここでのアウトパフォーマンスはすべてパフォーマンスとして、コストの変動とパフォーマンスの変動として抑えておく程度で良いと思う。抑えて分析しておくことで、自己防衛にもなる。

また、「満足度」という言葉はあまり多用してはいけない。満足度を上げようとする、コストも職員のストレスも上がってしまう恐れがある。気をつけて使っていただきたい。ただし否定するものでもない。

次のステップとして、中間アウトカムとしてどのようなものが考えられるかも議論していただきたい。

それと、リーディング項目の中項目「2. 他の自治体の図書館や大学・類縁機関との相互協力をすすめているか。」で、大学・類縁機関に関する項目がない。大学・類縁機関に関する項目を加えるべきである。

図書館には公民館のような登録グループ制度がないということであるが、おはなし会や子ども読書会などはあると思うが、現状はどうか。支援しているグループは登録グループとは呼ばないのか。

●委員

図書館には登録グループ制度はないが、育成団体がある。

●委員

豊中子ども文庫連絡会は、図書館の育成団体の位置づけである。

登録団体数の指標化については、評価検討委員会でもあったが、全体のボランティア人数を把握していないこともあり、数値を出せるところは出すようにはしたが、今回は見送ることとした。

●委員長

学校図書館への支援と連携とのところで、学校司書の数とは指標化・実数化はされないのか。

●事務局

特段、学校司書数の指標化は行なっていない。学校に提供している資料等を通じて自動的に把握できる。

また、地域ごとの細やかな課題を全体として、共有していかなければならないと思うので、今後、情報共有できる仕組みに改善していきたいと思う。

●委員長

地域のデータをブレイクダウンし、みんなで一緒に考えることができる基盤が必要である。市の統計処理の仕方を検討し、小学校単位の統計データをもう少し充実するよう、担当部署の方に図書館協議会から懸念の声があったと、伝えていただきたい。地域が単なる記号になってしまっている。コンピュータ処理でできないのは、言い訳にはならない。

また、図書館は、地域コミュニティ基本方針に基づき、地域のコミュニティ活性化の活動をバックアップしていく必要がある。みんなで一緒に考えていくための図書館や公民館にならないといけない。

2. 今後の取組について

＊事務局から、当日資料に基づき説明を行なった。

- ・平成21年度から平成23年度までの3年間、「豊中市立図書館の運営状況に関する評価報告書」に基づき、全館の職員と情報共有を図りながら、リーディング項目の実施に取り組んでいく。
- ・「図書館利用者アンケート調査結果」「豊中市の教育に関するアンケート調査結果」「地域別のサービスの実態調査結果」等に基づき、これまで以上に身近な生涯学習の基盤機能を担えるよう、また地域における情報センターの役割についても、更なる充実に努めていく。
- ・向こう3年間の方向性としては、現行の資源の再配置や広域連携による未整備地域への不均衡緩和策等を軸にしながら、「ICT技術を利用したWebでの直接サービス」の拡大や「子ども読書活動推進事業」で実践されているような多様な主体との協働連携をもとにした事業推進等、誰にでも分かりやすいサービス内容とPR活動を大切に、より効率的・効果的なサービス展開を推進していく。

- ・昨年度の近隣市との共同研究により、具体化が可能となったＩＣＴを活用した市民参加型の地域辞書システムを箕面市との共同事業で取組んでいく。また、電子メールを利用した「Ｅ－レファレンス」やWeb上での郷土関係新聞記事策引データベースの提供を行なっていく。

●委員

1の案件の際にも話が出たと思うが、豊中市立図書館が指定管理者制度の導入を見送ったことは、評価してよいと思う。豊中市の財政悪化の状況の中で、豊中市立図書館の司書等は財産である。図書館は、財産であることを自覚し、もっとPRに努めていただきたい。そして、教育振興計画に対しても、もっとものをいっていく必要がある。

蔵書についても、蔵書数より本の新鮮度等が落ちていることは、図書館にとっても生命線になる。もっと危機感を持って、取組んでいただきたい。

●委員長

本日の会議で、今期の図書館協議会は終了となる。時期も引き続き委員をお引き受けいただける方もおられると思う。今後ともよろしくお願いします。

また、先日、岡崎市立図書館（りぶら）を訪問した。岡崎市の図書館はボランティアで運営されている。岡崎市の図書館は新しい運営形態である。一度、機会があれば視察に行かれたらどうか。

それでは以上で図書館協議会を閉会する。